

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石川 伊織

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 ・新潟を旅する人々</p>	<p>近代以降における新潟と中央また地方との文化交流を、旅と交通の観点から分析した。新潟から旅立った、また新潟を訪れた著名人の紀行を探索し、内田百間の「阿呆列車」をまず検討したが、それ以上に興味深い資料として、新潟高等女学校と新津高等女学校の校友会誌・同窓会誌を発掘することができた。これによると、大正末から昭和初期にかけての高等女学校の多彩な教育・文化交流活動を発見することとなった。これが両校の特殊な事情によるものなのか、それとも上越・中越地域の中等・高等教育機関にも共通する教育方針であったのかを探索する必要がある。同様の学内誌を上越地域においても発見することが次の目標となる。幸い、昭和9年の新潟・佐渡旅行の際に新潟県内各地で開催された与謝野晶子の講演会の内容については、上記の新潟高等女学校における講演だけでなく、長岡の互尊文庫（現・長岡市立図書館）における講演記録の存在は明らかとなっている。引き続き資料の探索をすることが課題である。</p>	<p>・くびき野カレッジ天地びと 第25期「内田百間と新潟」（2022年10月8日 町屋交流館・高田小町） ・道旅文化交流研究会 「1927年新潟高等女学校における諸橋轍次の講演」（2022年10月12日 オンライン）</p>

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>・『ヘーゲル美学講義における絵画論の芸術哲学的な意義とボアスレ・コレクション』(2020年度～2023年度 科学研究費 基盤研究(B) 課題番号：20H01204)</p>	<p>ヘーゲルの芸術哲学思想には、ボアスレ兄弟の絵画コレクション(現在はミュンヘンのアルテ・ピナコテークの主要な収蔵品となっている)とドレスデンのアルテ・マイスター絵画観所蔵の作品群を見たことがもととなっている。このことは、先行する我々の研究『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』(2014年度～2018年度 科学研究費 基盤研究(B) 課題番号：26284020)において既に明らかとなっている。一方、ボアスレ兄弟の芸術思想は、私淑していたフリードリヒ・シュレーゲルの導きによるところが大きい。他方、シュレーゲルのネーデルラント絵画についての知見はボアスレに導かれるところが大きであった。ヘーゲルはこの両者のネーデルラント絵画についての思想とそれによって体系づけられたコレクションを見て理論を構築したものと考えられる。ロマン主義と対立するヘーゲルではあるが、芸術の見かたとしてはロマン派の主流と極めて近い関係にあったと考えられるのである。本研究は、この経緯を明らかにすることを目標としている。</p>	<p>・「ボアスレの絵画観の成立」(科研費研究会 高知大学 2022年9月24日～25日)</p>
--	---	---

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石塚正英

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	ますや de お話し会を利用して、くびき文化に関する研究成果を報告した。	<p>〔講座〕裸足と素足あるいは巫女と芸妓+越後高田の雪下駄、ますや de お話会 (37 回) 2022.11.12</p> <p>〔講座〕関山神社・法定寺両石仏群探訪記—平野団三翁の思い出—、ますや de お話会 (35 回) 2022.09.10</p> <p>〔講座〕日時計の小話—最古の歴史と上越の事例—、ますや de お話会 (34 回) 日時計の小話—最古の歴史と上越の事例—、ますや de お話会 (34 回) 2022.08.13</p>
【くびき文化に関係しない研究】	【文明を支える原初性】というテーマのもとに、論文執筆、学術報告などを行った。	<p>〔論文〕野生的なまなざしの象形画家ジョアン・ミロ、NPO 法人頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Vol.7/No.06 2022.07.06.</p> <p>〔論文〕シュタインの自治国家構想—not 国家連邦 but 自治連邦、NPO 法人頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Vol.7/No.05 2022.06.06.</p> <p>〔講演〕ジョージ・リランガの描く 3 本指「シェターニ」、アウラの森芸術舎 (Amamoto &amp; Shiraishi Africulture Centre) オープニング・イベント、伊豆の国市奈古谷エメラルドタウン、2022.04.29</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 唐澤太輔

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 ・「裏日本」文化に関する研究	秋田県内を中心にフィールドワークを実施。  宇野崎海岸（男鹿半島・大型ジオパーク）（4月10日、7月10日、16日）、横手城址（4月23日）、寒風山（5月5日）、新玉川大橋付近（5月21日）、ネコバリ岩（6月12日）、雲昌寺（6月25日）、秋田八幡平（八幡平ビジターセンター）（7月28、29日）	なし。
【くびき文化に関係しない研究】 ・南方熊楠が粘菌研究から構想した生命論の探求	1) 粘菌の原形質流動を中心とした動態の調査。 2) 南方熊楠の思想と華嚴思想の研究。 特に、粘菌の奇妙な生態を哲学的に捉え直すことを継続的に行い、さらにそれをアートとしてどのように展開可能かを考察した。粘菌の原形質流動と人間の心拍のリズムのシンクロ可能かについて研究中。	(主な論文) ・「“tact”に関する哲学的考察—南方熊楠の言説から—」(『「エコ・フィロソフィ」研究』16号、東洋大学 pp.81-94、2022年2月) ・「粘菌哲学の視座—触覚と原形質流動—」(『ユリイカ』789巻、青土社 pp.309-316、2022年4月) (主な講演・発表) ・「神社合祀反対運動と南方マンダラー—南方熊楠による実践の思想的背景—(京都大学人文科学研

		<p>         研究所「環境問題の社会史的研究班、2022年6月）          ・「粘菌の基本的生態と触知の重要性」（Klub Zukunft 第193回月例会、2022年9月）          ・「太陽の塔が示現するもの」（ふたかわ超学校×紀南アートウィーク『太陽の塔』上映会+唐澤太輔特別トーク、2022年10月）          ・「大小島真木「コレスポンダンス」関連トークイベント「万物は語る」No.3「粘菌」（千葉県美術館、2022年10月）          （その他）          ・作品〈ミヅカホコリをととのえる〉（はじまりの美術館企画展『日常をととのえる』木村和歌葉、平山はな、山田汐音、坪谷奈摘美、渡部優、後藤那月、船山哲郎、唐澤太輔、2022年4-7月）          ・座談会「変形菌のアルス・コンビナトリアーアートとサイエンスの紐帯―」（松本淳×唐澤太輔×齋藤帆奈）（『ユリイカ』789巻、青土社 pp.255-268、2022年4月）          ・作品評「重層的円環構造をなす生命」（前田耕平「Breathing」へのレビュー）（紀南アートウィーク2021『籠る牟婁 ひらく紀南』紀南アートウィーク実行委員会 pp.87-90、2022年8月）       </p>
--	--	---

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 黒木朋興

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	特になし	特になし
【くびき文化に関係しない研究】	埼玉県秩父地方の札所と石仏に関するフィールドワーク	〔論文〕「ダンテとボードレーは比較可能なのか？ - 19 世紀フランスの廢墟のアレゴリーに向けて」, 『世界文学』135 号, 令和 4 年 6 月 〔研究会発表〕「ロックと悪魔」, 音楽史研究会, 令和 4 年 10 月 11 日

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 古賀 治幸

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>くびきの文化関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>直江津プロジェクト関係</li> </ul> <p>・「道・旅・文化交流」関係</p>	<p>1) 直江津プロジェクト（東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2021 年第 2 回会合（12 月 30 日：zoom）－前年度の活動報告と新年度の活動方針の打ち合わせ。</li> </ul> <p>2) くびき野カレッジ（資料調査等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料収集（4 月 14 日）：頸城郡絵図関連調査＝高田図書館</li> <li>資料収集（8 月 12 日）：北九州市、ゼンリンミュージアム（地図の博物館）</li> </ul>	<p>[報告] くびき野カレッジ－天地びと－第 5 講 「直江津往還補説 15－頸城野内往来：在の道 5、頸城郡細見絵図－」（7 月 9 日）</p> <p>[報告] くびき野カレッジ－天地びと－第 2 講 「直江津往還補説 16－越後世界往来：絵図と地形図 1－」（10 月 8 日）</p> <p>[報告] 道・旅・文化交流－第 8 回会合 「越後頸城野往還－道・旅・文化交流関連試案 2」 （7 月 20 日） zoom</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>歴史学関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近現代史関係</li> </ul> <p>・ロシア、ソ連史関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本西洋史学会参加（zoom）</li> <li>近現代史研究会開催（対面、zoom 併用）</li> <li>ロシア史研究会大会参加（zoom）</li> </ul>	

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 真野俊和

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 プロジェクト [21 世紀の上越スタイル]</p> <p>くびき野カレッジ講義</p>	<p>・左記プロジェクトを発足させ、趣意書の作成、説明会の開催等の準備作業を進めた。</p>	<p>くびき野カレッジ講義題目</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2022 年 9 月 10 日「町内会という難問」</li><li>・2022 年 11 月 12 日「合併後上越市と NPO 活動」</li><li>・2022 年 3 月 12 日「文字に籠められた思い」</li><li>・2022 年 4 月 9 日「旅先で死んだらどうなるか」</li></ul>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 四国遍路習俗の総合的性格に関する検討</p>	<p>四国 4 県によって設置される、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会「普遍的価値の証明」部会における研究会に出席し、検討と議論に参加した。</p> <p>人類学関係 5 学会合同シンポジウム「〇〇なヒト」にシンポジストとして参加した。</p>	<p>以下の日程で会議実施</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2022 年 3 月 2 日（オンライン参加）</li><li>・2019 年 9 月 2 日（オンライン参加）</li><li>・2022 年 9 月 19 日：発表題目は「“民俗”に生かされるヒト、“民俗”を生かすヒト—土着と前衛—」</li></ul>



NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 瀧田 寧

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 明治期の直江津に滞在したダン一家に関する研究</p>	<p>1) 『直江津往還—文学と近代からみた頸城野』(直江津プロジェクト編集、社会評論社、2013 年 11 月 25 日)の刊行から 8 年以上が経過した。この間、さまざまな道に新たに出会ったが、その中から、本報告では信濃追分で出会った道を取り上げた。また、本書執筆時に調査した道と久しぶりに再会した際の新たな気付きについても、報告を行った。</p> <p>2) 2022 年 10 月、コロナ禍になって初めて東京と直江津を往復した。右のフォーラムに掲載した文章は、その報告である。コロナ禍に入ってからこれまでは、直江津に行くこと自体を自粛していたので、このたびの往還が、まずは現地での研究活動再開へと意識を向ける第一歩となった。</p>	<p>1) 『直江津往還』後に出会った道」(口頭発表)、道・旅・文化交流プロジェクト第 5 回報告会(オンライン開催)、2022 年 1 月 27 日。</p> <p>2) 「コロナ禍の直江津往還」(フォーラム)、頸城野郷土資料室(発行)『頸城野郷土資料室学術研究部 研究紀要』2022 巻 98 号、2022 年 10 月 15 日、1-3 頁。</p>

<p><b>【くびき文化に関係しない研究】</b> 17世紀英仏哲学・思想における蓋然的信念への知性の導き方(とりわけ、ジョン・ロックの哲学を中心に)</p>	<p>1) 「イングランド啓蒙への学際的アプローチ — 「開かれた理性」の復権を目指して」(日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究(B)による研究会)における研究分担者として、ジョン・ロックの「知性の導き方」に関する研究の進捗状況を報告した。</p> <p>2) 2021年度に開催された総合社会学会・第23回研究大会のシンポジウムで行った報告の要旨が、本学会の機関誌に掲載された。</p> <p>3) 『知性の正しい導き方』を翻訳した下川潔氏の退職記念シンポジウムにおいて、本書の持つ現代的な意義を浮き彫りにした。</p> <p>4) 教養としての哲学を受講している学生に対して、「哲学する」ために知性を導くことの意義をどのようにしたら伝えることができるのか、というテーマを、ロックとデューイを手がかりにして考察した。</p>	<p>1) 「何が自立を可能にするのか—ロックにおける「試みること」の意義—」(口頭発表)、第25回イングランド啓蒙研究会(開催校:福岡大学、Zoom会議にて参加)、2022年3月27日。</p> <p>2) 「第23回シンポジウム報告:コロナ禍で再検討される大学教育のあり方「講義科目(哲学講義)を例に」」(研究発表要旨)、『総合社会科学研究』(総合社会学会編)第4集4号(通巻34号)、48-54頁、2022年3月31日。</p> <p>3) 『『知性の正しい導き方』をどう読むか』(シンポジウム報告)、第16回ジョン・ロック研究会、特別企画「下川潔先生退職記念シンポジウム」(学習院大学)、2022年8月25日。</p> <p>4) 「「哲学する」ことの意義はどのように伝わるのか—ロックの『知性の正しい導き方』とデューイの『思考の方法』を手がかりにして—」(口頭発表)、日本イギリス理想主義学会・第17回研究大会(同志社大学今出川キャンパス)、2022年12月3日。</p>
---	--	---

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 米田 祐介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 太宰治の〈佐渡〉	・2021 年より〈道・旅・文化交流〉企画が石塚正英理事長のかけ声のもと始まった。コロナ禍における閉塞の乗り越えを旨とする。本研究は、太宰治における〈佐渡〉の意味を探求せんとするものである。本年（2022 年）はその前編／前提をなすものとして、「太宰治の佐渡（1）——〈いきさつ〉から旧制新潟高校での講演を中心に」と題し、太宰の講演（昭和 15 年 11 月 16 日）へといたる背景やその内容を検討した。〈佐渡〉前夜のことである。そこからえられた知見をもとに佐渡へと接合するとともに「閉塞」の乗り越えを試みたい。	・【報告】「太宰治の佐渡（1）——〈いきさつ〉から旧制新潟高校での講演を中心に」NPO 法人頸城野郷土資料室：〈道・旅・文化交流〉企画（於）オンライン 2022 年 5 月 11 日
【くびき文化に関係しない研究】 シベリア抑留と文化活動	・シベリア抑留といういわば「異文化体験」から捕虜・抑留者が何を得たのか。また日本社会に何をもたらしたかは、実のところほとんど研究されていない。このような問題意識から、富田武著『抑留を生きる力——シベリア捕虜の内面世界』の読解を通じて個人の体験——俳人であったわたしの祖父・一穂はイルクーツク第一捕虜収容所に収容されるも、しかし奇跡的に生き延びることができた——という小さな物語を抑留史あるいは戦後史という大きな物語のなかに位置づけるとともに抑留期においてなお絶えることのなかった文化活動の意義を探求した。	・【書評・エッセイ】「大きな物語と小さな物語の〈はざま〉にあるもの——記憶を紡ぎ、記録するということ」富田武著『ものがたり戦後史——「歴史総合」入門講義』（ちくま新書、2022 年 2 月 10 日）、富田武著『抑留を生きる力——シベリア捕虜の内面世界』（朝日新聞出版、2022 年 6 月 25 日）、現代の理論編集委員会編『現代の理論 DIGITAL』第 31 号、オンライン 2022 年 8 月 <a href="http://gendainoriron.jp/vol.31/review/maita.php">http://gendainoriron.jp/vol.31/review/maita.php</a>

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 茂木謙之介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	地域文化に関連する論文を収めた学術書を刊行した。	・茂木謙之介『SNS 天皇論 ポップカルチャー＝スピリチュアリティと現代日本』（講談社選書メチエ、2022 年 4 月）
【くびき文化に関係しない研究】	オンラインを通じた研究教育に関する書籍を刊行したほか、日本学に関する教科書を刊行した。	・茂木謙之介・大嶋えり子・小泉勇人共編著『コロナとアカデミア』（雷音学術出版、2022 年 5 月） ・伴野文亮・茂木謙之介共編著『日本学の教科書』（文学通信、2022 年 3 月）

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山田 彩加

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 郷土玩具・民芸品の変容または進化	新潟県内に伝わる郷土玩具・民芸品（主に三角だるま）の歴史と、製作・販売の現状について調査したい。	現在のところ、発表なし。 今後、当事者への取材を予定している。
【くびき文化に関係しない研究】 ①市外団体の市民活動  ②家族と法	①上越市企画政策課主催・「若者が主体的に活動している市外団体の取組や事例を学ぶ研修会」に参加（2022年10月）。若い世代の活躍について学んでいきたい。  ②昨年度に引き続き、財産の共有・相続を行なう人間関係である「家族」について考える。 同性パートナーシップ制度の導入など、各自治体における家族の多様化への支援について把握していきたい。	①現在のところ、発表なし。  ②現在のところ、発表なし。 家族の多様化を考えるうえでも、ライフプランニングの基礎を学ぶ必要があるため、下記資格を取得（2022年6月）。 ・3級ファイナンシャル・プランニング技能士 （保険顧客資産相談業務）

NPO 法人頸城野郷土資料室  
2022 年度学術研究概要報告

研究者氏名 湯本 泰隆

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】		
【くびき文化に関係しない研究】  地域の文化財を活用した地域活性 三島億二郎に関する研究  文化創造系 YouTube の研究	夏・秋と蔵王堂城跡を利用したマルシェを 2 回企画  史跡紹介系、人物紹介系、怪談系の動画を製作	KFA ホームページ「研究概要報告」 100 本の動画を作成・公開